

資料 4

第 5 回青谷地域振興会議資料

令和 2 年 11 月 25 日

担当課

地域振興課

青谷高等学校を取り巻く状況等について

○青谷高等学校の入学者数について

H29 年—86 人、 H30 年—68 人、 H31 年—91 人、 R2 年—57 人

※平成 30 年度県教育委員会策定《今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針》では、「1 学年 3 学級の小規模校については、入学者数が 2 年連続して募集定員の 3 分の 2 に満たない場合は、原則として 1 学年 2 学級とする」とされています。青谷高等学校の学級数を維持するためには、令和 3 年度は、76 人の入学者数を確保する必要があります。

※現在の学校規模を維持するためには、学校のさらなる魅力化と県外生徒も含めた生徒の積極的な募集が必要です。

○鳥取県教育委員会高等学校課の取り組み

中山間の高校の生徒数減少に対して、全国から生徒を募集する活動や、高校の魅力化の取り組みとして、令和 2 年度「県立高校の魅力磨き上げ事業」を実施。

●県立高校の魅力磨き上げ事業

▶地域・教育魅力化プラットフォーム「地域みらい留学」によるオンラインでの県外生徒募集活動（高等学校課、青谷高等学校）

▶徳島県立海部高等学校視察（11 月 9 日、10 日）（高等学校課、青谷高等学校、青谷町総合支所）

※県外生徒の下宿先としては、倉吉北高等学校の寮を利用させていただき予定です。青谷地域内で下宿先を確保していくことも必要です。

※11 月 18 日現在、県外生徒（中学 3 年）の保護者 4 名から学校に問合せあり（神奈川 2、静岡 1、不明 1）。

○青谷高等学校の取り組み

▶青谷学（2 年次生）と課題探究（3 年次生）の継続

10 月 30 日（金） あおこうまるしえ：道の駅西いなば気楽里（課題探究：3 年次生）

12 月 9 日（水） 課題探究成果発表会

2 月上旬 青谷学ポスターセッション（青谷学：2 年次生）

▶令和 3 年度から新たに選択科目に「弥生文化探究」を追加し、青谷の地域資源である青谷上寺地遺跡を生きた教材として扱い、体験型学びを進め、青谷高校の魅力の一つとする。

※妻木晩田遺跡の見学、大学教授などの県外講師招聘も予定。

※その他の令和 3 年度新規事業（予定）

・青高進学相談会⇒中学生及びその保護者への理解促進

・学校紹介 DVD の作成・配布⇒業者による撮影・編集

・選択科目「スポーツⅣ」の開設⇒様々なダンス活動による自己表現力の高揚

○青谷高等学校活性化を支援する会

第5回青谷高等学校活性化を支援する会（7月16日）開催

小川校長先生から青谷高等学校の取り組み説明、県教委高等学校課高校教育企画室から県立高校の魅力磨き上げ事業について説明。

（意見等）青谷高校の魅力磨き上げ事業、魅力推進事業について、地域の人が提案する場所や機会があれば良いと思う。

○青谷町総合支所等の取り組み

- ▶青谷町総合支所だより「青谷高校NOW」の掲載
- ▶青谷高校活性化を支援する会と連携して「だっぴ」（9/10開催）に協力
- ▶青谷地域賑わい創出実行委員会と連携し、青谷学、課題探究への支援
- ▶鳥取市広報番組「来ました！元気人！」の青谷高校生徒出演協力